



ニュースレターの概要

このニュースレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

町民をつなぐ交流拠点

「榊葉まなび館」

平成27年9月5日に避難指示が解除された榊葉町に、住民がサークル活動や文化活動などを行い交流するための拠点として、榊葉まなび館が平成28年7月7日にオープンしました。

今回、榊葉町教育総務課文化財係・生涯学習係・社会教育係の主任 査渡 迎信彦氏に榊葉まなび館の開館の経緯や活動の様子・今後の展望などについて話を伺った。



榊葉南小にオープン

震災後、榊葉町では、公民館が震災復興に関わるいくつかの団体の拠点として使用されており、帰還した住民や避難先から訪れる住民の活動する場として利用することができなかった。そのため、町内の小・中学校が榊葉中学校で再開し、施設の維持管理をする必要があった榊葉南小学校を生生涯学習の施設として活用することとした。

榊葉南小学校は、廊下と教室の仕切りのないオープンスペースの学校であり、パーテーションで区切るな

どしながら、団体に合わせて広いスペースを効率的に活用することができ。また、エレベーターやスロープが配置されており、障害のある人やお年寄りも活用しやすい施設となっている。

住民をつなぐ場

生きがいづくりの場

榊葉まなび館を拠点として活動している団体には、支援でいただいた古着を再利用し、案山子を制作している「なかにし隊」やつるし雛を制作している「和布細工ほのぼの」、布わらじを制作している「わらじ組」

わらじ組の活動教室



案山子づくりの活動教室



などがある。「わらじ組」の布ぞうりには【parahato】というブランドでパリでも販売されている。ほかにも全面芝生の校庭でグランドゴルフをする団体やよさこいや和太鼓、日舞、婦人会などの団体も活動し、町民の生きがいづくりの場となっている。また、避難先で活動していた団体が、メンバーの帰還に合わせて榊葉まなび館にも拠点をつくって活動するようになったり、避難先から通って活動する人もいたりするなど、榊

葉まなび館が帰還した住民だけでなく避難先と榊葉町をつなぐ役割も果たしている。

住民の帰還にあわせ

その時その時のベストを

今年度、小学校の運動会を「小・中学校・住民合同運動会」として開催した。小学生の精一杯走る姿や中学生の集団演技「よさこい」、消防団分団対抗のリレーに大きな声援と拍手が起こったり、地域の人たちが借り物競争や親子競技に参加したりするなど、会場が一体となって楽しんだ運動会となった。これまでと同じではなく、どうすれば住民にとってより良いものになるのかを考えて取り組むことの大切さが伺える。

これから、町民の帰還がさらに進む。それにあわせ、震災以前に行っていた公民館事業を復活させていきたい。今は、その準備として先に戻った人たちの活動を充実させながら、これから戻ってくる人たちの受け皿を広げていきたい。また、避難先でせっかく出上来上がったコミュニケーションを榊葉町に戻っても継続できるような拠点をまなび館をしていきたいと担当者らは話す。



榊葉まなび館の外観

ゆるく！無理なく！

自分みせ！「だがしや楽校」

棚倉町では、平成27年から棚倉町文化センターにおいて「だがしや楽校」を開催している。当日は、棚倉町の住民だけでなく福島県内外で「だがしや楽校」に取り組んでいる自治体や大学からたくさんの方が集まり、お互いに「みせだし」を通じて交流し、つながりをつくった。

「だがしや楽校」とは、どんなものなのか、開催の経緯と活動の様子等を棚倉町生涯学習課の主宰 兼 社会教育主事である古市裕幸氏から話を伺った。



「だがしや楽校」とは

以前は、当たり前存在していた駄菓子屋の風景をヒントに現代社会に必要なつながりをつくっていかうと考えだされた活動で、駄菓子屋をヒントにしたことから「だがしや楽校」とのネーミングになっている。

活動は、「店」を基本形に自分が持つもの（趣味や特技や知識・体験）を他者に伝える「自分みせ」をつくり、お互いに自分の関心ごとを見せ

合い、人と出会い、おしゃべりをしながら交流していく。誰でも教える側にも教わる側にもなれるお互いが学び合えるユニークな活動だ。

だれでも参加しやすく

生涯学習が活性化！

棚倉町では、平成26年に喜多方市で行われた福島県社会教育研究会



子どもたちも参加

において当時東北芸術工科大学に勤務していた松田道雄氏の講義から「だがしや楽校」の考え方を知った。

自分の得意なことを見せて交流ができること、これまでの経験を発表できなくても、公民館講座等に参加しなくても大丈夫なことなど、誰でも参加しやすい活動で、生涯学習の活性化につながるのではないかと考え取り組み始めた。

参加者との縁づくり

だがしや楽校『楽縁祭』

今年度は、縁づくりをテーマに「楽縁祭」として、11月18日（土）19日

（日）に棚倉町文化センターで開催された。両日とも店だし以外の来場者も含め、200名以上が参加し交流を深めていた。

店だしは「昔遊び」「折り紙」「焼きおにぎり」「紙芝居」「ラジオ体操」など多種多様なものであった。子どもたちの店だしもあり、参加者の関心を引き付けにぎわっていた。

また、文化センター内にあるプラネタリウムを活用し、茨城大学生の協力のもと星空観察会を実施したほか、棚倉町の友好都市の川越市にある尚美学園大学生や地元の修明高校コーラス部による合唱、さらには町の文化祭等の同時開催という幅広い活動が多くの人との縁づくりにつながっていた。

【平成29年度参加団体】

- ・ 東京都杉並区
- ・ 神奈川県綾瀬市
- ・ 公益のふるさと創り鶴岡（山形県鶴岡市）
- ・ 会津坂下町金上地区地域づくり協議会
- ・ 尚美学園大学（埼玉県川越市）
- ・ 尚綱学院大学（宮城県名取市）
- ・ 東北芸術工科大学（山形県山形市）
- ・ 茨城大学（茨城県水戸市）
- ・ 修明高校コーラス部
- ・ 棚倉げんき塾
- ・ 文化祭出品者
- ・ たなぐら小径マルシェ出店者

より多くの人との交流を

これまで開催してきた文化センターは、町の中心地から離れているが多様な活動スペースと広さがあり、宿泊施設が隣接しているなど便利な開催場所であった。

来年度以降さらに交流を拡大するために、多くの町民の目に触れる町の中心部で実施し、町民が気軽に参加できるようにするとともに県外からの参加者が棚倉町の魅力を感じ、また、参加したいと思えるような取り組みとしたい。また、今後も「ゆるく、無理なく」をキーワードに、店だしをしている参加者自身が楽しめるものとし、たくさんの方が集い交流する活動として、今後も継続していきたいと担当者は話す。



多くの人でにぎわう文化センターホール